

# 生活景に着目した まちの音と住民の意識に関する調査研究

古川 日出雄<sup>1</sup>・佐々木 葉<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 学生会員 早稲田大学大学院創造理工学研究科建設工学専攻  
(〒 169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1, Email:hideo.f-w@suou.waseda.jp)

<sup>2</sup> 正会員 博士(工学) 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科  
(〒 169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1, Email:yoh@waseda.jp)

本研究では生活景に対する音からのアプローチを試みるための第一段階として、郡上市八幡町を対象とし、サウンドスケープの実態調査を行った。アンケート調査によって住民が認識しているまちの中の音とその意味および共有性を把握し、ヒアリング調査によってまちの音から想起する住民のイメージを明らかにする事を目的とした。その結果、住民は水関連の音、郡上踊りの音、秋葉様の鐘の音に対して心地よい、まちにとって大切であるといった意識をもっており、さらにそれらの音に対して住民は、自ら経験してきた生活の中での行為を想起するということが明らかになった。

キーワード：生活景、サウンドスケープ、郡上八幡

## 1. はじめに

### (1) 背景と目的

1990年代後半より「生活景」の有する価値に対する関心が高まってきている。生活景とは、「生活の営みが色濃くにじみでた景観」、「地域風土や伝統に依拠した生活体験に基づいてヒューマナイズされたながめの総体」と定義される。また、後藤らは生活景は「目に見えるもののみならず、背後に存在する営々と受け継がれた地域の歴史の蓄積やその上に培われた地域の文化等を包含しているところに大きな意味を持っている」とも述べている<sup>1)</sup>。つまり生活景とは、人々の生活や生活環境を「眺め」という媒体を通して捉えたもので、ここで意味する生活環境とは地域の風土や伝統に依拠した生活を通じて生み出されたものであるといえる。

しかし、生活景は未だ漠然とした概念であり、計画論的なアプローチの手法は確立されていない。その理由に生活景は、定義上は可視的形象を意味するが人々は環境を眺めだけでなく、音や香り、肌触りや温度感等の五感すべてを通して捉えるので、眺めという一側面からのアプローチだけで生活景の背後にある人々の生活や生活環境を議論するには限界があるということが挙げられる。

一方、五感の中で人々の生活と密接な関係にあると推測できる媒体に「音」がある。1996年に環境庁の選出した「残したい日本の音風景100選」<sup>2)</sup>では「青森のねぶた祭」、「川越の時の鐘」、「吉田川の川遊び」といったような住民の生活に密着した音も選出されており、これらの音以外にも人は生きていく上で様々な音によって包み込まれた環境で生活をしている。また、このような音の側面から人々が環境をどのように捉えているかを扱う分野に「サウンドスケープ」という分野がある<sup>3)</sup>。筆者は生活景を従来のように眺めからだけでなく、サウンドスケープの研究手法を援用し、音の側面からも捉えることを試みることで、生活景に対する計画論的なアプローチ手法を確立することに寄与すると考えている。そこで本研究では、その第一段階として、岐阜県郡上市八幡町を対象として、サウンドスケープの実態調査を行うことを目的とする。ここでの実態調査とはサウンドスケープの概念に基づき、住民が音環境をどのように捉えているかに主眼をおくこととする。

### (2) 研究の手法

本研究では、まずアンケート調査により、住民が日々どのような音にどのような意味を感じそれを共有して

いるかを調査する。そしてアンケート結果から明らかになった八幡のサウンドスケープを特徴づけている音について、実際の現場の音を採取し、それらの音を住民に聞いてもらい、どのようなイメージを想起したのかを自由に語ってもらう。さらに得られた結果にテキストマイニングを適用し、住民が想起する音に関する地域のイメージを把握することとする。

### (3) 対象地の選定と概要

研究の対象地としては、「残したい日本の音風景 100 選」において「吉田川の川遊び」が選出され、また、その静けさ故に個々のまちの音が聞き取りやすいと考えられる岐阜県郡上市八幡町（以下、八幡）とする。八幡は岐阜県のほぼ中央に位置し、平成 20 年 10 月 1 日現在で人口 15,535 人、面積 242,31 km<sup>2</sup> である。集住地には水網が張り巡らされ、その水を多面的に利用するシステムが住民によって代々受け継がれており、郡上踊り等の祭事や歴史的なまち並みと相俟って八幡独自の生活景が形成されている。

### (4) 既存研究と研究の位置づけ

生活景に関する研究としては、吉丸らによる生活景の捉え方、景観的特徴を既存の研究や論考を整理することで明らかにし、その上で社会実験を通して生活景の価値、景観施策展開への活用の可能性を検討した研究<sup>4)</sup>、野崎らによる尾道市の居住者が生活景に対してどのような印象をもち、現在と過去の生活景をどのような知覚でとらえているのかを明らかにした一連の研究<sup>4),6),7)</sup>がある。

また、サウンドスケープに関する研究としては、まちづくりと関連させているものでは、金沢市東山周辺地域を対象として、まちの音が地域の住民にとってアイデンティティとしての価値を持っているとし、音の重要性を提言している土田らによる研究<sup>8)</sup>、住民は音を物理的な量で評価しているのではないことを明らかにし、漁業を継承することが地域の音環境保全・育成につながるとし、住民の生活知識を活かした地域保全計画を行うことの重要性を提言している小松による研究<sup>9)</sup>がある。

生活景と音の関係性について注目はされているが、具体的に音の観点から生活景に対してアプローチした研究は未だ無い。

## 2. アンケート調査

### (1) 調査の概要

住民がまちの中のどのような音にどんな意味を感じ、それを共有しているかを明らかにするため、住民を対象としたアンケート調査を行った。調査概要、回答者の属性、調査内容については表-1、表-2、表-3に示す。

表-1 調査概要

配布期間	2009 年 11 月 8 日 (日)	配布形式	ポスティング
配布地区	16 地区 (下尾崎町, 上尾崎町, 向山, 職人町, 鍛冶町, 本町, 上柳町, 中柳町, 常盤町, 北朝日町, 南朝日町, 川原町, 乙姫町, 新町, 稲荷町, 今町)		
回答数 / 配布数 (回収率)	132 / 610 (21.6%)		

表-2 回答者の属性

性別 (人)	男性 (62), 女性 (58)
年齢 (人)	10 代 (1), 20 代 (3), 30 代 (4), 40 代 (12), 50 代 (17), 60 代 (36), 70 代 (41), 80 代 (8), 無回答 (5)
居住歴 (人)	1 年未満 (0), 1-5 年 (2), 6-10 年 (2), 11-20 年 (7), 21-30 年 (16), 31 年以上 (95), 無回答 (5)

表-3 アンケート内容

Q.1	心地良い音はなんですか。またなぜそう思われるのですか。
Q.2	不快な音はなんですか。またなぜそう思われるのですか。
Q.3	このまちならではの象徴的な音はなんですか。
Q.4	八幡のまちにとって大切な音はなんでしょうか。また、なぜそう思われるのですか。
Q.5	回答者属性

### (2) 調査の結果

#### a) 心地よい音について

集計結果を図-1に示す。伝統的な文化である川や水路、郡上踊りの音はやはり多く想起された。また、八幡は自然が豊かであるため、鳥の鳴き声や虫の鳴き声も多く想起された。しかし、最も多く想起された音は「秋葉様の鐘の音」で、朝 6 時、夕方 6 時（冬期は 5 時）に必ず鳴る寺の鐘の音である。「どんなときの」という質問に対しては、「朝起きた時の」「夜眠る時の」「静かなときの」という回答が非常に多く、八幡独特の「静けさ」があったこそ、住民は音を心地よいと感じると言える。

#### b) 不快な音について

集計結果を図-2に示す。「自動車の音」を含む交通関連の音が多く想起された。朝、夜と非常に静かな町であるため日中の人々の活動時間に聞かれる交通関連の音が、より不快であると感じると考えられる。次に多く挙げられた観光関連の音は観光客のマナーの悪さとともに記述される事が多かった。また、観光客の騒ぐ声が不快であると回答した約 40% が職人町の住民であった。職人町の歴史的街並みは八幡の観光スポットとなっているの

ことが要因と考えられる。

### c) 象徴的な音について

心地よい音とほぼ同一の結果となった。しかし、注目すべきは「川で子供の遊ぶ声」や踊り関連の音が想起される割合が高くなったということである。「水と踊りのまち」といったキャッチフレーズや「残したい音風景100選」の影響が住民にも浸透しているからであると考え

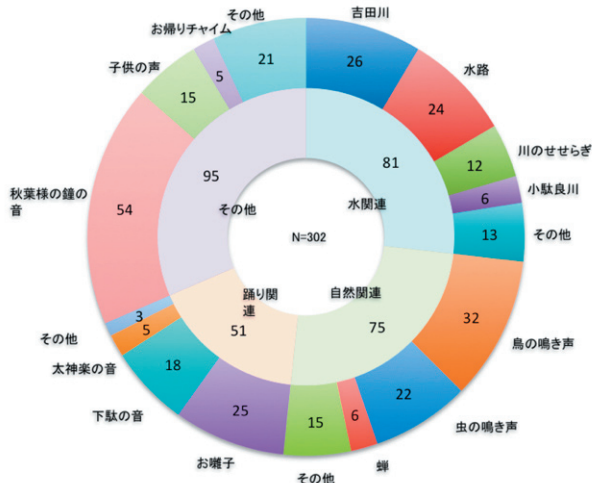


図-1 心地よい音 (人)

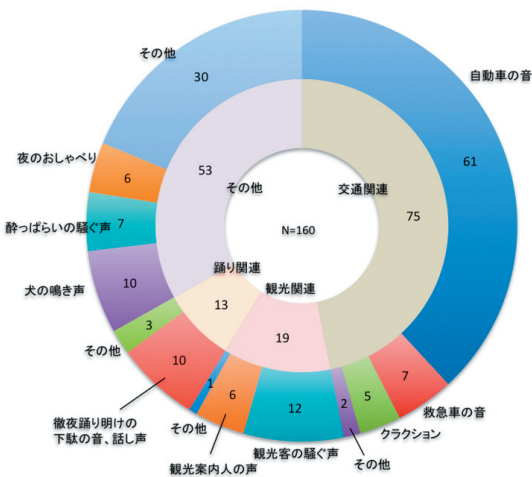


図-2 不快な音 (人)



図-3 大切な音 (人)

えられる。

### d) 大切な音について

集計結果を図-3に示す。概ね「心地よい音」、「象徴的な音」と同じような回答が得られた。しかし、水関連の音でいうならば、心地よい音や象徴的な音の場合に上位にあった、「吉田川の音」や「水路の音」のような特定の要素ではなく、「川のせせらぎ」(住民の中には水路を川と呼ぶ人もいる)や「水の音」(水利用施設すべての音を意味すると考えられる)といった音を総体的にとらえた要素が多く想起された。この事から、「八幡のまち」と「水」という大きな概念との強い結びつきが感じられる。また、秋葉様の鐘の音については年齢別で比較すると、回答者の97%が60歳以上の高齢者となった。

## 3.KJ法による住民の意識構造の把握

### (1) KJ法による分類結果

八幡のまちの音に対して、住民が評価する際の意識構造を把握するため、「心地よい音」・「不快な音」・「大切な音」における理由を回答する自由記述部分をKJ法によって整理した。なお設問1において自然の音が心地よいと回答することは一般的なことであり、本節ではまちのサウンドスケープを特徴づける音に関しての住民の意識構造を把握することが目的であるため、分析対象からは除くこととする。結果を図-4、図-5、図-6に示す。

#### a) 心地よい音について

水関連の音、秋葉様の鐘の音、郡上踊りの音ともに項目「日常生活の一部」と「心理的好影響」に分類される回答が多い傾向にある。それぞれの音について「心が洗われる」といったような心理的好影響を与えるため心地よいと感じるのは当然のことであるが、幼い頃から馴染んだ音で、日常生活の一部となっているから心地よいと回答するのは地域住民ならではのといえる。特に、鐘の音にかんしては「一日の始まりと終わりを自覚する」といった「時の鐘」として認識されているため心地よいと感じる傾向もある。また、郡上踊りの音については自分が若い頃、踊りに行った記憶と深く結びついており、その音を聞きながら当時のことを思いめぐらせ、心地よいと感じていると考えられる。

#### b) 不快な音について

自動車の音、観光客の声ともに項目「生活への影響」、



「心理的悪影響」に分類される回答が多い。単純に「うるさいから」や「騒がしいから」といった理由で不快であると感じるのは当然である。一方、「眠れない」や「テレビが聞きにくい」といった回答のように住民の生活に支障を来すため不快であると認識されているということも明らかになった。

c) 大切な音について

水関連の音と郡上踊りの音については、「まちのあちこちできれいな水のながれる水路があるまちはなかなか

ないことから大切にしたい」や郡上踊りの音は「無形文化財として後世につたえていきたい」といった回答に代表されるように項目「アイデンティティー」、「観光」、「まちの財産」に分類される回答が多い。しかし秋葉様の鐘の音は「風情があり、気持ちが鎮まる」といった回答に代表されるように「安らぎ」や「和み」を日々の中で感じさせてくれる音として認識されていることや「八幡に住んでから聞き続けているから」や「一日のけじめのよなものだから」といった回答に代表されるように日常

■水関連の音	■秋葉様の鐘の音	■郡上踊りの音
<p>●日常生活の一部 46.4%</p> <p>☆日常 44.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供の頃からの音だから</li> <li>毎日聞いている音でなじんでいる</li> <li>幼いときから生活用水としてなじんできたから</li> </ul> <p>☆生活のリズム 1.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞配達のため、朝4時は起き、出発するため</li> </ul> <p>●心理的好影響 41.1%</p> <p>☆安らぎ・和み 35.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心が洗われる。英気が養われる</li> <li>澄んだ音色で気が休まる</li> <li>騒がしい世の中に心が落ち着く。</li> </ul> <p>☆癒癒 5.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供の頃この川で泳いだことを思い出す</li> <li>川を眺めるたびに子供頃、川でぼしゃぼしゃと泳いだり石を投げて遊んだ事が昨日のように思い出され、つい立ち止まってしまう</li> </ul> <p>●まちらしさ 1.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この町に住んでいる事が誇れる</li> </ul> <p>●季節 1.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水の色、増水時の濁り等、散歩時に思う四季の色違いで時節を感じる。</li> </ul> <p>●自然の豊かさ 1.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然の豊かさ、清らかさ</li> </ul>	<p>●日常生活の一部 62.5%</p> <p>☆日常 29.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生まれたときからの音だから耳になじんでいる</li> <li>聞き慣れた音で昔も今も変わらないから</li> <li>当たり前のように毎日聞いている音だから</li> </ul> <p>☆生活のリズム 33.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一日の始まりと終わりを自覚する</li> <li>一日の初めの合図。聞き終わると布団から出られる</li> <li>一日が終わったと思う。一日のけじめがつけられる。</li> </ul> <p>●心理的好影響 29.2%</p> <p>☆安らぎ・和み 27.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鐘の音で安心感、情緒がある</li> <li>これから始まる一日が平穏無事である事を念じてくれているようだから</li> <li>一日が無事に終わるような安心感がある</li> </ul> <p>☆癒癒 2.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一日の出発を励ますような音色でありその余韻が懐かしい</li> </ul> <p>●まちらしさ 6.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郡上の城下町にマッチしている</li> <li>時刻を知る以外に八幡にいる事を強く感じる</li> <li>毎日聞いているのが山、川の景色にぴったりあって心地よい</li> </ul>	<p>●日常生活の一部 21.8%</p> <p>☆日常</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若い頃お盆になると踊ったので音が身にしみて</li> <li>子どものころからなじんでいる</li> <li>当たり前のように耳にしている</li> </ul> <p>●季節 25.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏がきたと感じる。街がにぎやかになるなど感じる</li> <li>小さい音でも山にこだまて聞こえてくると「夏だな～」と思う</li> </ul> <p>●心理的好影響 43.8%</p> <p>☆安らぎ・和み 12.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近くよりも遠くからかすかに聞こえてくる踊りや下駄の音が心地よい</li> <li>夏の夜遠くから聞こえてくる祭囃子の音は格別</li> <li>踊り手の下駄の音がそろったとき、遠くで聞こえるとき風情を感じる</li> </ul> <p>☆癒癒 18.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若い頃下駄をはいてよく踊った事を思い出す</li> <li>古き良き日本を感じる</li> <li>聞いている間に寝入ってしまう様な心地よい音である。</li> </ul> <p>☆癒癒 12.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>踊りが無い日でも下駄の音を聞くこと心はやる気持ちになる</li> <li>いるんな人が仲良く踊っている感じが好き</li> </ul>

図-4 KJ法による住民の意識構造の分類：心地よい音（%は全回答数に対するその項目に分類される回答数の割合）

■自動車の音	■観光客の声
<p>●まちとの不調和 15.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静かなまちに似合わない</li> <li>このまちは時間がゆったり流れるようにのんびりのどかな土地柄だと思ふ。</li> <li>静かな城下町らしくない</li> </ul> <p>●生活への影響 32.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自宅が揺れる</li> <li>テレビが聞きにくい</li> <li>通学路なので気をつけてほしい</li> </ul> <p>●心理的悪影響 52.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やかましい</li> <li>いらいらする</li> <li>耳がつんざく。頭が痛くなる。家にいてもうるさい。</li> </ul>	<p>●まちとの不調和 7.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客がない時は全く静かなので、その差が激しく何となく不快</li> </ul> <p>●生活への影響 50.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道一杯に広がって大きな声でしゃべられては困る</li> <li>子供が昼寝のときにゆっくり休めない</li> <li>夜中まで大勢で騒いだり、火花の音が朝方まで続くので眠れない</li> </ul> <p>●心理的悪影響 42.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな声がいらいらする</li> <li>騒がしい</li> <li>観光案内の声は何もかもが一緒。何度もきいていると心が晴れない</li> </ul>

図-5 KJ法による住民の意識構造の分類：不快な音（%は全回答数に対するその項目に分類される回答数の割合）

■水関連の音	■秋葉様の鐘の音	■郡上踊り関連の音	
<p>●アイデンティティー 44.7%</p> <p>☆郡上らしさ 19.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こんな町あちこちできれいな水の流れる水路がある町はなかなかないことからこれを大切にしたい</li> <li>いたるところに水路や角屋など水に触れるものがある。そういう町は日本に数少ない</li> </ul> <p>☆誇り・自慢 6.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八幡は山に挟まれ真ん中に川が流れているという風景はかわらなくまてや水がきれいという自慢できるまちだから。どこにいても水の音が聞こえる。</li> </ul> <p>●まちの財産 6.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美しい水、歴史がある。</li> <li>無くなった元にもどるのに大変な時間や労力がかかる。郡上の文化であるから</li> </ul> <p>●日常生活の一部 12.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼い頃から慣れ親しんだ音や声である</li> <li>水はこの町の人にとっては切れない存在</li> <li>何十年も変わる事なく子供の頃より聞き育ったため</li> </ul> <p>●自然の豊かさ 14.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川の音、水の音は自然の豊かさを感じる。</li> <li>自然と一体となった住まいと文化のある街が好きだから大切にしたい。</li> <li>いつまでも自然を大切に住み良い町を保つために。</li> </ul>	<p>●心理的好影響 19.2%</p> <p>☆安らぎ・和み 14.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このまちならではの川の流れるは住む人の心に安らぎを与える</li> <li>またきもちが洗われる思いがある。</li> <li>心休まる音を提供してくれる。</li> </ul> <p>☆癒癒 4.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供の頃にきいた音は大人になっても懐かしく感じられる。情緒豊かになると思う</li> </ul> <p>●観光 21.3%</p> <p>☆観光 PR 8.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八幡を代表する観光 PR</li> <li>町の中心を流れる吉田川、町内を流れる川、観光にも利用したい。</li> </ul> <p>☆キャッチフレーズ 12.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水と踊りのふるさとをキャッチフレーズにしている八幡にとって何が一番大事かといわれればやはり町内に流れるやさしい水の音</li> <li>郡上八幡が「水の町」といわれているから</li> </ul>	<p>●アイデンティティー 25.0%</p> <p>☆郡上らしさ 25%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町にあう</li> <li>あまり他のまちには無いようなので大事にしたい</li> <li>鐘の音は郡上の象徴として当たり前のようにかんじて</li> </ul> <p>●まちの財産 12.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また昔から続けられている歴史を感じる</li> <li>100年以上続いた八幡の文化であり</li> </ul> <p>●日常生活の一部 37.5%</p> <p>☆日常 16.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何十年も変わる事なく子供の頃より聞き育ったため</li> <li>八幡に住んでから聞き続けているから</li> </ul> <p>☆生活のリズム 20.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一日の生活の区切りになる</li> <li>昔からの音で、時間がわかる。</li> </ul> <p>●心理的好影響 41.7%</p> <p>☆安らぎ・和み 37.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋などは特に心に響く。朝は元気がでる。</li> <li>風情があり、鐘の音は気持ちを静めるような気がする。</li> <li>生きる喜びを感じる。平和な響きがある</li> </ul> <p>☆癒癒 4.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供の頃にきいた音は大人になっても懐かしく感じられ、情緒豊かになると思う</li> </ul>	<p>●アイデンティティー 15.1%</p> <p>☆郡上らしさ 12.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八幡はなんと言っても郡上踊り無くしては語れない</li> <li>田舎町であり、城下町である古い町の名残としてふるさととしてあってとても良い音だと思ふ。</li> </ul> <p>☆誇り・自慢 3.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八幡の踊りの音色は八幡ならではの音であり財産。</li> </ul> <p>●まちの財産 30.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本三民謡の1つなので大切にしたい</li> <li>無形文化財としていつまでも後世に残していきたい</li> </ul> <p>●心理的好影響 27.3%</p> <p>☆安らぎ・和み 3.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心穏やかにしてくれる</li> </ul> <p>☆癒癒 9.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔懐かしい音を聞くことにより心がほぐれることがあり、幸せを感じる</li> </ul> <p>☆癒癒 15.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>踊りをすればなんでも幸せそうなる</li> </ul> <p>●観光 15.2%</p> <p>☆観光 PR 15.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大切な観光資源だから</li> </ul> <p>●日常生活の一部 12.1%</p> <p>☆日常 12.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供の頃から身に染み付いているから</li> </ul> <p>●季節感 12.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏が来たと思う</li> </ul>

図-6 KJ法による住民の意識構造の分類：大切な音（%は全回答数に対するその項目に分類される回答数の割合）

生活の一部であり、その音が個人の生活に直接影響を及ぼすものだから大切にしたいと認識されていることがわかった。

## (2) 考察

### a) 心地よい音・不快な音について

まちの音で「心地よい音」、「不快な音」は何かという個人による音の印象評価的傾向の強いこれらの設問への回答より、個人がまちの音に対してどのような観点で評価しているのかを考察する。この2つの設問に対して住民は個人の感性に基づいて回答すると考えられる。よってKJ法による分類において、項目「心理的好影響」、「心理的悪影響」に分類される回答が多いということは当然の結果であり、ここで注目すべきは心地よい音では「日常生活の一部」、不快な音では「生活への影響」に分類される回答が多いということである。この結果より、住民はまちの音への印象を「自らの生活においてどのような位置づけにあるのか」という観点から評価するということがいえる。

### b) 大切な音について

音は目に見える風景と比べて意識しづらく、八幡においても水利用施設と郡上踊りが視覚的にも象徴性の強いものであるため、まちにとって大切な音という設問に対してもこれら2つの要素は多く抽出された。さらにその理由についても項目「観光」、「アイデンティティー」、「まちの財産」に多く分類されており、その内容を詳細にみていくと、音そのものではなく、音の発生源（水利用施設や郡上踊り）が観光PRとなるから、まちのアイデンティティーであるからという回答であった。しかし純粋に「音」として捉え、大切にしたいとしている回答には「幼い頃から慣れ親しんだ音であるから」、「生きる喜びを感じる平和な響きがするから」といった項目「日常生活の

一部」、「心理的好影響」に分類される回答が多い。この結果より住民の意識の中にこれらの音とともに暮らしてきたという認識があり、音が「八幡で暮らしているということ」を規定する要因になっているということがいえる。

## 4. ヒアリング調査

### (1) ヒアリング調査概要

アンケート調査の結果より、八幡のサウンドスケープを特徴づける音として水関連の音、郡上踊りの音、秋葉様の鐘の音が抽出された。ここではそれらの音から住民はどのようなイメージを想起するのか把握するため、面接方式のヒアリング調査を行った。調査の概要を表-4、表-5に示す。

表-4 ヒアリング調査概要

日時	2010年1月11日(月)～1月13日(水)
対象	八幡町に住む60代～80代の住民9名
方法	事前に連絡した上、自宅訪問による面接方式
内容	水関連の音(吉田川の音、水舟の音、水路の音)、郡上踊りのお囃子の音、秋葉様の鐘の音を調査者が録音した音声を流し、それぞれからイメージされる風景や記憶、思い出を語ってもらい、記録した。

表-5 対象者概要

	性別	年齢	居住歴	職業	地区名
A	男	73歳	30年以上	無職	川原町
B	男	81歳	30年以上	無職	上柘形町
C	女	61歳	30年以上	自営業	上柘形町
D	男	70歳	30年以上	自営業	上柘形町
E	男	75歳	30年以上	無職	下愛宕町
F	男	66歳	30年以上	大工	職人町
G	女	85歳	30年以上	無職	鍛冶屋町
H	男	78歳	30年以上	無職	稲荷町
I	男	81歳	30年以上	無職	上柘形町

<p>■吉田川の音</p> <p>A: ぼつと考えると、泳いで自分が流れに逆らわず泳いで、流れているような感じ</p> <p>E: 心の安らぎを感じる。子供の時の初めて川に行って泳いだ思い出。子供のときから過ごしてきた思い出を感じる。</p>
<p>■水舟の音</p> <p>D: スイカを冷やすと旨い、トマト、きゅうりを冷やすとおいしいなあというイメージ。それと今みたいな「コットン」という音をきくと、先に一杯水を飲みたいなあと感じる。</p>
<p>■水路の音</p> <p>I: 母親が秋の終わりに野菜を小川で洗って、漬け物をつけた。それを冬の食料にした。菜洗い(漬け物につける野菜と洗う事)は季節の行事だったもの。洗うときに板を谷川に持って行って足場をつくって座り込んで、その水で菜洗いをしたもんだよ。白菜、大根、かぶを山のように洗ってつけたんだよ。それを町屋では地下室の桶に入れて保存するんだよ、それを冬に出してくると氷が張ってあってね、カネコリといってね、それを炭火の網でジュジュジュと溶かすんだよ。それが冷たくておいしいんだよ、ご飯がすすむもの。</p>
<p>■踊りの音</p> <p>H: この音がなると近所から浴衣と下駄の人達が一斉に出ていってね。この音をきくとやっぱりそられる。浴衣来て、下駄を履いて、近所の子みんな誘って、みんなで踊ったなあ。</p>
<p>■秋葉様の鐘の音</p> <p>D: 朝は今日一日ははじまるなあ、はじまりの音として聞く。鐘の音が終わるまで耳をすます。ラジオが六時が知らせた後にならず。夕方は今日も一日無事に終わったかとそう思う。</p>

図-7 ヒアリング調査の回答例 ※アルファベットは表-5に対応する。



## (2) ヒアリング調査結果

得られた回答の例を図-7に示す。分析にはテキストマイニングのためのフリーウェア KH Cooder を用いた。そして共起ネットワークを用いることで比較的強くお互いに結びついている部分を自動的に検出し、グループ分けを行い、その結果を色分けによって示した。分析結果を図-8～図-12に示す。抽出することができたそれぞれのイメージを以下に示す。

### ①吉田川の音

1-1: 川に飛び込んで遊ぶイメージ

1-2: 山菜採り遊びを思い出すイメージ

### ②水舟の音

2-1: 水舟で食べものを冷やして食べるイメージ

2-2: 水舟に野菜が浮かんでいるイメージ

### ③水路の音

3-1: 水路で野菜を洗ったり、洗濯をしたりしていた頃の水路でのコミュニケーションのイメージ

3-2: 男性が菜洗いの足場をくんでいたというイメージ

3-3: 水路に蓋がされておらず、魚が居たところを思い出すイメージ

3-4: 夏は打ち水、冬は除雪のために家の前に水をまくイメージ

### ④郡上踊りの音

4-1: 遠くから聞こえるイメージ

4-2: 真夏を思い出すイメージ

4-3: 親子、近所みんなそろって踊りにでかけたイメージ

### ⑤秋葉様の鐘の音

5-1: 冬の寒修行のイメージ

5-2: 町民の暮らしのイメージ

5-3: 鐘の音が一日のけじめとなっているイメージ

以上のように八幡のサウンドスケープを特徴づける5つの音に対して住民が抱いているイメージを把握することができた。また、被験者が高齢なので現在吉田川で飛び込んで遊んでいないことや、水路で野菜を洗ったり、洗濯をすることが現在はほとんど行われていないということとを考慮すると住民は音に対して現在、過去を問わず、人生の中でその音と一番密接に関わっていた頃の生活の中での行為を想起することが明らかとなった。

## 5. まとめ

本研究の成果は以下の5つである。アンケート調査により①八幡の音風景を特徴づける音種を抽出した。その上でそれらの音種についてKJ法により住民の音に対する意識構造を読み解いていくことで②音に対する住民の印象評価の基準に「生活における音の位置づけ」という尺度があるということ、③音が八幡での暮らしにおいて心の拠り所になりうるということを示した。また、④秋葉様の鐘のようにサウンドスケープに着目しなければ把握できない住民の生活において重要な役割を果たしている音があるということも明らかになった。さらにヒアリング調査を通じて、⑤住民は音に対して現在、過去を問わず、人生の中でその音と一番密接に関わっていた頃の生活の中での行為を想起することが明らかとなった。

今後の課題としては、ヒアリングの対象者が高齢者に偏ってしまったため、若年層に対しても調査を行う必要が有る。

## 参考文献

- 1) 社団法人日本建築学会, 生活景, pp15,25, 学芸出版社, 2009.3.30
- 2) 環境省, 感覚環境の街作り報告書, 2006.12
- 3) 鳥越いけ子, サウンドスケープ-その思想と実践-, 奥村印刷, 1997.3.25
- 4) 吉丸俊和・柴田久・石橋知也, 生活景の捉え方と一般市街地における景観施策への活用に関する考察, 景観・デザイン研究講演集 No.3, 2007.12
- 5) 野崎 俊佑・千代章一郎, 尾道市の斜面街区における現在と過去の生活景と感覚の問題, 日本建築学会近畿支部研究報告集, 2006
- 6) 野崎俊佑・千代章一郎, 尾道市の斜面街区における現在と過去の生活景の問題, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2004.8
- 7) 野崎俊佑・千代章一郎, 尾道市の斜面街区における生活景の形成, 日本建築学会中国支部研究報告集, 2006.3
- 8) 土田義郎・稲橋和彦・宮野祐, 金沢市東山周辺地域の音風景に対する住民の意識構造, サウンドスケープ 9 巻, 2007
- 9) 小松正史, 漁村におけるサウンドスケープ研究 - 丹後・伊根浦を例として -, 日本音響学会音楽音響研究会, 1995.2
- 10) 渡部一二・郭中端・堀込憲二, 水縁空間, 星雲社, 1993.8.25
- 11) 武藤互朗, 郡上八幡町史 上巻・下巻, 平和印刷, 1961.1.20